

令和2年第6回大川市教育委員会（定例会）会議録

令和2年4月30日、大川市役所大会議室において、令和2年第6回教育委員会（定例会）を開催した。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりである。

1. 開会及び閉会に関する事項

開会 15時00分

閉会 16時05分

2. 出席委員の氏名

教育長 内藤 妙子

委員 谷川 朋昭

委員 一ノ瀬直子

委員 蔵本美保子

委員 恵崎 浩則

3. 欠席委員

なし

4. 事務局等の出席者

学校教育課長 馬淵 嘉臣

学校教育課主任教育指導主事 池上 和久

生涯学習課長 岡 辰磨

生涯学習課長補佐 岡 美詠子

学校教育課長補佐 山口 馨

記録者・学校教育課総務係 永島 潤一

5. 傍聴者

なし

6. 付議案件

審議事項

(1) 議案第20号 令和2年度大川市一般会計補正予算について

(2) 議案第21号 臨時代理について

報告事項

(1) 会計年度任用職員等の任用について

(2) 令和2年度学級編制について

(3) 令和元年度学校評価のまとめについて

7. 教育長の挨拶の要旨

(1) 本年度の人事異動について

本年度の新規採用教員は、教諭が9名、養護教諭が1名の計10名である。また、女性の管理職昇任が1名、校長昇任となる。基準外の県費教職員の確保に関しては、専科2名、特別支援学級4名、英語専科8名である。課題としては、市内10校中、主幹教諭のいない学校が1校あること。人材育成を行っていききたい。

教育委員会事務局に関しては、割愛指導主事として、池上主任教育指導主事が課長級とし

て着任をした。

(2) 第2次木の香プランについて

前年度策定をし、本年度から取り組んでいく。教員の研修、小中一貫型教育・中高連携教育、コミュニティ・スクールの3つの柱を軸に活動を行っていく。

8. 議事の概要

審議事項	(1) 議案第20号 令和2年度大川市一般会計補正予算について
質問・意見等なし	
《採決》 全員挙手により原案のとおり承認	
審議事項	(2) 議案第21号 臨時代理の承認について
質問・意見等なし	
《採決》 全員挙手により原案のとおり承認	
報告事項	(1) 会計年度任用職員等の任用について
委員	小学校算数学習支援員等の「1日何時間、年間何日」と記載されている方は、休校期間中はこういった勤務状況か。 また、今勤務されているのであれば、こういったことをしていただいているのか。
事務局	学級指導支援者については、14時まで学校で子どもを預かっているのも、そういった子どもの支援にあたっていただいている。また、学校によっては、学校が再開してから勤務していただくようにしている学校もある。算数支援員については、学校が再開してからの勤務としている。
教育長	本市では、家で見守ることが困難な家庭の子ども等については、学校で預かりを行っている。 4月の初めは28%ほどの子どもが学校・学童保育所に来ていたが、現在は、家庭で見守りが可能な場合等は自粛のお願いをしているため、17%程度となっている。
委員	小学校英語学習指導者が大野島小学校だけ書かれていないが、不在ということか。
事務局	基本的には各学校に1名ずつ配置となっているが、大野島小学校については、学校と協議の結果、英語学習指導者の配置は必要がないということなので、配置をしていない。

委員	支援員等については、休校期間中も6時間勤務しているのか。学校が再開した際に忙しくなることが考えられるが、年間日数等の調整等は可能なのか。
事務局	学校の実情に合わせて勤務時間の短縮はしている。学校再開後については現在協議中である。
事務局	今は休校中に登校してくる子どもの支援を1番に考え対応をしている。学校再開後については、配置数等に不足が出てきた場合には、補正予算等での対応を検討していく。
委員	障害児等の学級指導支援員については、免許・資格等は必要であるのか。
事務局	免許・資格等は特に必要ない。
委員	それで問題はないのか。
事務局	不都合はいまのところ出ていない。
委員	ある程度の知識が必要。研修等があったほうが良いのではないのか。
事務局	昨年度は研修会を行った。本年度も学校の状況が落ち着いたところで研修等の開催を行ってまいりたい。
報告事項	(2) 令和2年度学級編制について
委員	通学距離で道海島小学校区・三又小学校区から大川桐英中学校に校区外就学を申請した生徒はいるのか。
事務局	その条件で大川桐英中学校に進学する生徒はいない。
委員	大川桐英中学校の1年生のうち、特別支援学級の生徒が7名で、2クラスとなっているが、どういったクラス編制か。
事務局	大川桐英中学校の1年生が知的2名、自閉・情緒5名、3年生が知的1名、自閉・情緒1名のという内訳である。クラスとしては、知的が1クラス、自閉・情緒が1クラスの計2クラスとなっている。
委員	三又小学校が37名で2クラス、田口小学校が37名で1クラスと、同じ人数でクラス数に差が出ているのはなぜか。
事務局	三又小学校は、指導工夫改善の基準外加配定数を使用して少人数学級編制を行っており、木室小学校4年生、川口小学校1年生もこれにあたる。 一方、田口小学校は、少人数学級編制は行わずに、複数の学年に対して指導を行う体制をとっている。

報告事項	(3) 令和元年度学校評価のまとめについて
委員	<p>「確かな学力等」について、自己評価ではAが3校、Bが7校、Cが2校、Dが0校となっているが、評価の適切性では、Aが7校、Bが5校、C、Dが0校となっている。この差はなにか。</p>
事務局	<p>自己評価は、学校自身が自己評価をしたもの。一方、評価の適切性は、評価委員が学校の自己評価が適切であるかどうかを評価したものである。</p>